村のがまだしモン No.13

村に移住して頑張っている若者を紹介します

原園（はらぞの） みどりさん　川後田区在住

熊本市で生まれ、小さい頃から家族で南阿蘇にドライブに来てたとのこと。「豊かな自然の中で子育てできたら」という思いで2006年に熊本市よりご主人と6カ月の娘さんと移住されました。2年後には息子さんが誕生、現在は義母も呼んで5人暮らし。移住先を南阿蘇に決めたきっかけは「雄大な風景」「美味しい水と食べ物」そして「人情味溢れる人たち」ですと語る原園さん。

現在、役場近くのJA施設内でパン屋「DACCO bread＋café」を経営。観光地の南阿蘇にあって平日火曜日～金曜日の営業をされてます。子育てとの両立ということもあり無理なく続けるためにそのようにしているとか。ご家族を大事にされているからこそだと思いました。

カフェは、憩いの場、情報交換の場としても利用されているそうです。大好きな南阿蘇に住めるありがたさを日々感じながら…そして南阿蘇になにかしら恩返しをしていきたいと…。

また一人、素晴らしい方が南阿蘇の発展に活躍されます。

（取材者：今村輝宏委員）

笑顔の素敵な原園さん

矢尾板（やおいた） 亨（とおる）さん（39歳）　両併1区在住

東京で生まれ育ち、九州には修学旅行で来たのが初めて。東京のIT企業で経験を積み、独立を契機に、6年前南阿蘇村に移住されました。移住後に新たに子供さんも生まれ、現在、5人家族。

移住先に南阿蘇村を決めたきっかけは、「景観の素晴らしさ」。ご夫妻のご両親も東京にお住いで、空港から30分という「地の利の良さ」も決め手に。移住後に感じた誤算は？との質問にも「全て想定内。住みやすさにとても満足しています」と語る矢尾板さん。移住前に家族が望む条件を洗い出し、それをクリアしているかを調べて南阿蘇村を選ばれた事は、今後の移住希望者の方にも参考になりそうです。

最近では、ドローンのオペレーターとして空撮や映像制作の仕事依頼も増えてきたとの事。「復興する村の姿を空から記録し、南阿蘇村をもっと盛り上げたい」と語る姿が印象的でした。

手に職を持った若者達が村に多く移住し、新たな産業を興し、村の経済を活性化させる。矢尾板さんのような移住者が今後、村に増える事を大いに期待しています。

（取材者：太田副委員長）

ドローンを巧みに操る矢尾板さん

編集後記

熊本地震から二年が過ぎました。まだ、復旧復興も道半ばです。

私も広報委員になり、一年が過ぎ、少しずつですが、広報誌づくりが、わかるようになりました。広報で、議会や復旧復興の情報を、わかりやすく伝える事に努力してまいります。

農作業も忙しい時期になりました。健康管理には注意され、仕事をされますよう願っております。

栃原　辰郎

議会広報特別委員会

委員長　丸野　健一郎
副委員長　太田　吉浩
委員　笠野　眞喜
〃　今村　竜喜
〃　栃原　辰郎
〃　今村　輝宏

発行責任者

議長　荒牧　俊一

編集発行／南阿蘇村議会広報特別委員会　熊本県阿蘇郡南阿蘇村大字河陽1705-1　TEL0967-67-1553　FAX0967-67-0871